年報を創刊するにあたって

京浜歴科研が発足して２年を経過し、漸く私たちの学習の成果“年報”を発刊するはこびとなりました。学ぶ者は学んだ成果を必ず社会にかえすことが社会的責任と考えている私たちにとって漸く僅かながらその一端をしめすことになりました。

私たちは当初自由民権百年の記念行事だけで終らせたくないという気持ちでは一致していましたが、何故“地域”にこだわるのか、何故歴史“科学”なのかについて統一的な合意があったわけではなかったのです。私たちの活動は、民権百年実行委員会の時より始めた「神奈川県史を学ぶ会」を基本としましたが、“地域”史・歴史“科学”に関する討議が必要であると考え、２回にわたって【地域と歴史科学】の勉強会を開きました。年報の第Ⅰ部に収録した論文はその成果の一端です。

第Ⅱ部には、１９８５年１２月、「神奈川県史を学ぶ会」で学習した成果をふまえて企画した公開シンポジウム「神奈川自由民権研究の再検討」での報告と討論にもとずいた論文３本を収録しました。これまでの神奈川の民権運動史研究は、戦後の自由民権研究の多くがそうであったように、幕末の農民一揆―地租改正反対闘争―自由民権運動といった系譜論的民衆闘争理解のうえに構築されていました。私たちの研究はこうした超歴史的方法に一石を投ずることになったのではないかと思っています。

第Ⅲ部は私たちの学習の成果と課題にかんする論文を収録しました。ここには私たちが獲得してきた学習方法が明らかにされています。また、そこでの課題も明らかになっています。付録に京浜歴史科学研究会の会則を掲げておきました。

年報のタイトルを『京浜歴史科学研究会は何をめざしているのか』としたのは、収録論文全体を通じて、京浜歴史科学研究会がなにをめざしているのか、そのために何をしょうとしているのか、その概要がご理解願えるのではと思っております。

京浜歴科研も３年目に入り、より一層充実した内容のある活動を心掛けたいと思っております。勝手ながら、この年報をお読みになり、忌憚のないご批判を切望しています。

１９８７年１月　　京浜歴史科学研究会代表　内田修道